

響け念仏 北の大地に 本願寺帯広別院だより

〒080-0803 帯広市東3条南5丁目3 TEL: 0155 (23) 3720
FAX: 0155 (21) 4989 発行人: 輪番・仲尾信博

別院ホームページ
http://www.betsuin.jp/ →

2023
(令和5)年
6月号



色鮮やかに修復されたばかりの唐門前にて



華やかに荘厳された御影堂の親鸞聖人像

慶讃法要に団体参拝

帯広別院団体参拝団の一行は5月8日(月)、待ちに待った「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」に総勢27名で出

発しました。9日(火)、まずは修復された唐門の前で記念撮影し、ご法要が営まれる広大な御影堂へ移動。441畳もある外陣で帯広別院が案内された席は中央部分の4〜5列目。ご法要では親鸞聖人のご生涯を紹介する映像が流れたあと、琵琶をとりいれた雅楽の音色が始まり、新たに制定された『御本典作法』を全国のご門徒の皆さんとともにお勤めしました。法要後は6名が帰敬式を受け、国宝の書院、飛雲閣を拝観しました。翌日は京都観光、国立博物館の親鸞展では聖人の『鏡御影』や『教行信証』の直筆などを拝見。最終日は聖人ゆかりの六角堂を参拝、京都の台所・錦市場を散策しました。帰途、参加者から「次の本山参拝旅行はいつ?」と早くもありがたいお言葉をいただきました。

6月のご案内

月例布教 1日~3日 13時半<本堂>
常例布教 13日~16日13時<講堂・本堂> 宗祖月忌法要 15日・16日13時<本堂>

7月のご案内

月例布教 1日~3日 13時半<本堂>
暁天講座 10日~12日<東別院> 13日~15日 6時<西別院>
常例布教 13日~16日13時<講堂・本堂> 宗祖月忌法要 15日・16日13時<本堂>

さくら保育園降誕会

5月12日(金)、さくら保育園の年中組と年長組の園児さんといっしょに、親鸞聖人のご誕生をお祝いする降誕会の仏参をしました。



さくら保育園
ご法話に聞き入る園児さん

園児代表が献灯献花し、続いてひとりひとりが折り紙の花をお供えして「しんらんさま、おたんじょうびおめでとうございます」とお祝いを言いました。そして元気な声でお勤めし、「しんらんさまのたんじょうび」

帯広幼稚園降誕会

同日、帯広幼稚園でも園児さんと降誕会をお勤めしました。園児さんは折り紙で作ったお花をお供えし、子ども用の「正信偈」を元気よくお勤めしました。



帯広幼稚園

ご法話で、親鸞聖人のおかげで私たちはまちがいのないお念仏に出あえたこと、今年が親鸞聖人の850回目のお誕生日であることを話すと、園児さんは興味深そうに聞いていました。園長先生といっしょにお花を供える園児さん

本堂屋根修復の調査報告

3月に実施した本堂の屋根調査について報告いたします。



正面南側屋根のカラー鋼板は紫外線による焼付塗装の剥落が著しく、西側屋根は塗装が褪色し、雪止めは錆が散見されました。また、鋼板そのものに錆や腐食がないことも確認できました。専門家の意見をうかがい、この度は、再塗装を中心とした補修工事として進めることになりました。

自他ともにたい人我兼利

廃立 はいりゆう

今月の言葉「廃立」は仏教用語です。廃は捨てる、立は採用するという意味で、一方を捨て、一方を真実として立てることです。◆浄土真宗が大切にしている『観無量寿経』。お釈迦さまは、王舎城で救いを求める韋提希夫人の願いに応じて、研ぎ澄まされた心の目をもって仏さまを見(観)る「観仏」について説かれています。◆しかし、実際の私の心は常に揺れ動き、研ぎ澄ますどころではありません。◆親鸞聖人の慕われた法然上人は、観仏を廃して、お念仏の道を立てられました。観仏はお念仏への導きです。仏教は、正解に直接たどり着くことの難しい人生の中で、時には遠回りし、捨てたり、立てたりしながら、少しずつ、豊かな人生に導いてくださいます。(仲尾)

慶讃法要団体参拝の思い出 Photo



5月21日(日) 行事報告

初参式 9時30分

本堂にて3年ぶりの初参式を行いました。初参式は新たないのちの誕生を阿弥陀さまにご奉告し、仏の子として育てさせていただく誓いを立てる大切な儀式です。お式の中ではご家族皆さんの喜びが溢れていました。

降誕会法要 10時

本堂にて降誕会法要をお勤めし、今年で850年を迎える親鸞聖人のご誕生を祝いました。本堂には竜谷

学園・竜谷保育会の児童が描いた阿弥陀さまの絵を展示し、ご参拝の皆さんは笑顔でご覧になっていました。

五役会 11時

法要に続き、五役(責任役員・総代・参与・肝煎・世話役)会を開催しました。来年5月19日に別院において、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をお勤めすることを発表しました。これに併せて、平成6年の葺き替え以来褪色著しい本堂屋根の再塗装を中心とした補修工事についてご理解をいただきました。



ご法話



生きていくってなんなんだ 文：津村拓也

生きていくということとは、必ず死ぬということ。よくいわれるように、人間の死亡率は100%です。老少不定で順番がなく、いつ死ぬかわかりませんが必ず死にます。早いか遅いかの違いです。昨日まで、さつきまで元気だったが突然に亡くなられた、ということはいくらでもあります。

私たちは、今ここに生きているということが大変なことです。いつ死んでも不思議ではない私がかかされているのです。あたりまえではありません。目には見えませんが、多くのいのちの働きのおかげで生かされているのです。私たちのいのちは、自分が作りたいのちではありません。神や仏が創ったいのちでもありません。無数のご縁によって生まれ、生かされているいのちです。本来自分のものは何一つないのです。すべておかげさまなのです。

しかし私たちは生かされていることを忘れ、自分の力で生きていると思いがり、いのちの事実を見失っています。生かされている感謝を忘れ、すぐにあたりまえになり、感謝どころか少しでも自分にとって具合が悪くなると腹をたて、愚痴をこぼしています。

仏法を聞き、お念仏に遇うと、あたりまえが、おかげさまに転じられてくるのです。自我のメガネで見ている時は不平不満で一杯だったものが、阿弥陀さまに自我のメガネをとっていただき、その眼で見ると、生かされている事実が気づかされ、喜びや感謝で一杯になるのです。

6月 オススメの一冊



『ねえ、お坊さん教えてよ 死んだらどうなるの?』

著者 岡崎秀磨・富島信海
本願寺出版社/A5判144頁
1760円(税込)

死んだらどうなるのか、なぜ墓参りするのか、どこへ向かって手を合わせるのか。「死」と「死後」へのギモン、「仏壇」や「お墓」へのギモン、さまざまギモンにQ&A形式でわかりやすく答えます。附録として、「遺していく人」に伝えたいことをまとめておく「私の相談ノート」を収録(本願寺出版HPより)。本書では、よく耳にする仏教用語や、お墓・仏壇で見かける道具についてもわかりやすく丁寧に解説しています。例えば、浄土真宗の仏壇ではなぜ位牌を用いず、過去帳や法名軸を用いるのかなど、案外知らないことの解説書として一冊家があると助かります。(桐林)